

信濃町の埋蔵文化財

仲 町 遺 跡
一 里 塚 遺 跡

— 2001 個人住宅地点発掘調査報告書 —

2002

信濃町教育委員会

例 言

1. 本書は平成13年度に実施した長野県上水内郡信濃町における開発事業に伴う発掘調査、試掘調査、立会調査の報告書である。
2. 調査は国および県からの補助金交付を受けて信濃町教育委員会が実施した。
3. 本書の執筆、編集は調査担当者である渡辺哲也がおこなった。編集の補佐を藤田桂子がおこなった。
4. 本調査の遺物、実測図、写真等の資料はすべて信濃町教育委員会に保管されている。

出土資料の記号番号は次のとおりである。

仲町遺跡（2001個人住宅地点①）[01NK・KB]、仲町遺跡（2001個人住宅地点②）[01NK・IZ]、一里塚遺跡 [01IR]。

5. 調査体制は次のとおりである。

調査主体者 信濃町教育委員会

事務局 教 育 長 小林豊雄

総務教育課長 佐藤謙一郎

総務教育係長 丸山佳代子

調査担当者 総務教育係 渡辺哲也

発掘参加者

（仲町遺跡・2001個人住宅地点①）内田陽一郎、小林健吉、高田昭夫、滝沢敏雄、外谷朝生、藤田桂子
（一里塚遺跡）小林八重子、渋谷ユキ子、田村 勇、徳永 門、平塚せつ子、藤田桂子、山岸恵美子、
山崎啓一

整理参加者

麻田紀子 佐藤美佐江 佐藤道子 菅谷澄子 藤田桂子 松岡さとみ 松木圭子

6. 陶磁器類に関しては長野県埋蔵文化財センターの市川隆之氏にご教示いただいた。
7. 調査をおこなうにあたり、調査地の事業主である小林健吉氏（仲町遺跡）、井沢稔氏（仲町遺跡）、中山範男氏（一里塚遺跡）、中山幸男氏（一里塚遺跡）、狩野土氏（仁之倉A遺跡）からご協力をいただいた。記してお礼を申し上げる次第である。

目 次

I 信濃町の環境と遺跡	1
1. 自然的環境	1
2. 歴史的環境	2
II 調査の内容及び成果	2
1. 仲町遺跡（2001個人住宅地点①）	2
2. 仲町遺跡（2001個人住宅地点②）	4
3. 一里塚遺跡（2001個人住宅地点）	6
4. 仁之倉A遺跡	10
写真図版	11

I 信濃町の環境と遺跡

1. 自然的環境

信濃町は長野県の北端に位置し、新潟県と県境を接している。町域は東西の方向に概ね3つの地形に分けられる。東部は第三紀鮮新世から第四紀前期更新世の礫積岩を主体とする基盤山地が占め、それらの上を斑尾山起源の安山岩溶岩が覆っている。野尻湖はこの基盤山地の中にあり、およそ7万年前にその原形ができたといわれている。西部には第四紀中・後期更新世の飯縄山、黒姫山の火山地形が占めている。この東西の山地に挟まれた中央部に低地帯があり、主に後期更新世から完新世の湖沼・河川堆積物からなる丘陵、段丘、低湿地などになっている。

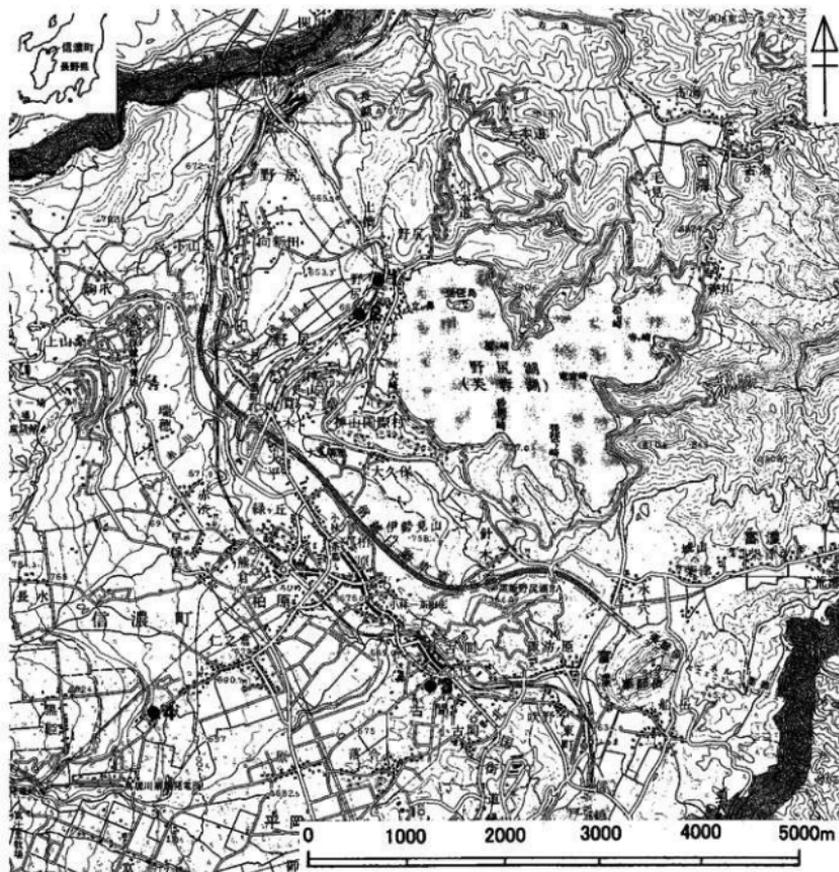


図1 調査地の位置 (信濃町役場作成1/50,000地形図を使用)
1. 伴町遺跡① 2. 仲町遺跡② 3. 黒塚遺跡 4. 仁之倉A遺跡

黒姫山東麓を水源とする赤洗川と野尻湖を水源とする池尻川は関川水系に属し、北方へと流下する。一方戸隠村を水源とする烏居川は千曲川（信濃川）水系に属し、南東方向に流下する。この二つの水系の分水嶺は柏原地区に位置し、その辺りはなだらかな高原状となっている。こうした平坦な地形は内陸部と日本海側とをつなぐルートとして古くから利用されてきたものと考えられる。現在人々が暮らす居住域は、標高700m前後の地域で、気候は日本海側の気候に属し、冬期は寒冷で多雪、夏期は比較的涼涼で避暑地として利用されている。

2. 歴史的環境

信濃町は前述のような地形の特徴により、日本海側と内陸部をつなぐ交通の要所にあるため、古くから人々の往来がさかんであったことが推測できる。江戸時代には北国街道が整備され、加賀前田家の参勤交代や佐渡の金銀の輸送ルートとして使われ、町内では野尻、柏原、古間の3つの宿場が設置され、整備された。また、関川を境として信濃と越後の国境があり、国境という歴史的、地理的な特徴を有している地域でもある。

信濃町には現在173ヶ所の遺跡が知られているが、時代により遺跡数の変遷にその特徴が見出せる。その特徴を列記すれば、1) 旧石器時代の遺跡が集中する。2) 縄文時代では草創期、早期、前期の遺跡は複数存在するが、縄文時代中期以降の遺跡は少なくなる。3) 縄文時代中期以降、弥生時代、古墳時代の遺跡はわずかで、平安時代になると遺跡数が急増する。

II 調査の内容及び成果

1. 仲町遺跡 (2001個人住宅地点①)

A. 概要

所在地	信濃町大字野尻861
事業主体	個人
原因	倉庫建設
調査の種類	試掘調査
調査面積	16㎡
調査期間	5月14日～5月16日
遺跡の時代	旧石器・縄文・中世・近世
出土点数	17点

B. 調査に至る経緯

野尻バイパス建設に関連して昨年移転をおこなった住宅に隣接して倉庫を建設することになり、遺跡の保護協議を実施した。ここは江戸時代に整備された北国街道の野尻宿の宿場内に位置しており、中世から近世までに整地が繰り返され、そうした攪乱をうけた地層から時期が異なった遺物が混在して出土する状況を昨年度の調査で確認した(信濃町教育委員会 2001)。今回の倉庫建設地も同様の状況が予想されたため、まずは試掘調査を実施して状況を把握し、遺構の検出や遺物の集中箇所が確認できた場合には全面的発掘をすることにし、事業主の協力を得て調査を実施した。

C. 調査の方法

建物の基礎工事の外周に沿って60cmの幅のトレンチを設定し、重機を用いず、手掘りによって工事で掘削する予定の50cmの深さまでを発掘した。

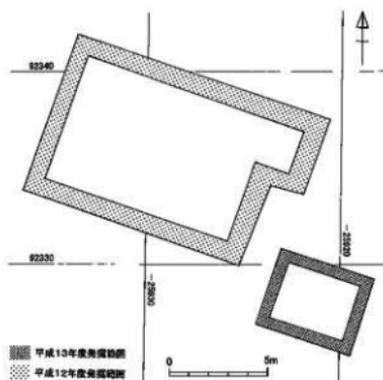


図2 仲町遺跡①調査地の座標位置

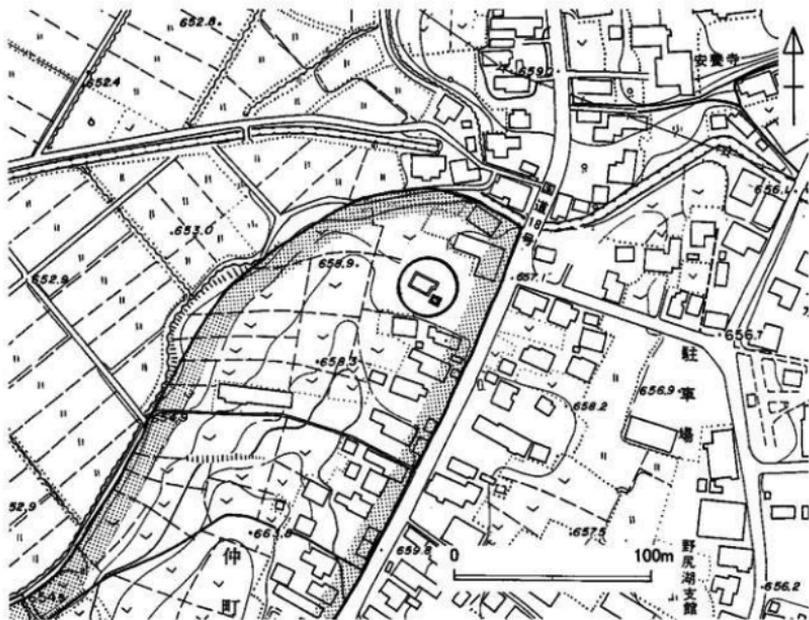


図3 仲町遺跡の範囲と調査地①の位置

D. 調査日誌抄

5月14日 はれ

初日。試掘調査する範囲を設定した後、発掘を開始。表土から10cm程度はジョレンで掘削し、その後は草かき鏝と移植ゴテで発掘を進める。土器、石器が出土。発掘ほぼ終了。

5月15日 はれ

発掘地全体と遺物の写真撮影。遺構の図面作成。

5月16日 くもり

遺物の取り上げ。柱状図の作成。調査完了。

E. 調査の成果

a. 層序

調査地は風成で黒褐色ないし暗褐色の火山灰層（柏原黒色火山灰層）が広く分布する地域であるが、図4に示したように、地表面から調査がおこなった50cm程度の深さまで広く柏原黒色火山灰層に黄色や黄褐色土が混入する層（I層）が広がっ

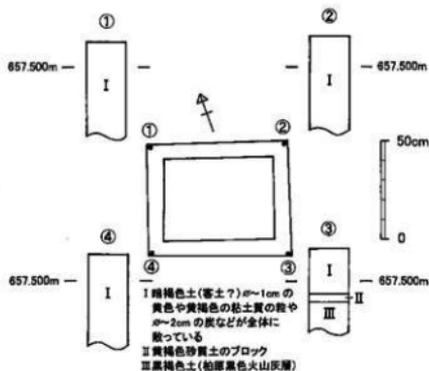


図4 仲町遺跡調査地①の調査範囲と土層柱状図

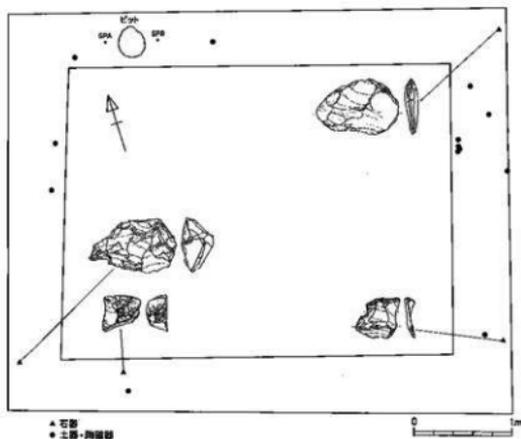


図5 仲町遺跡①の遺物分布

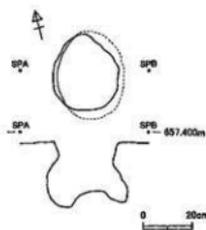


図6 ビット拡大図

ていて、整地等による攪乱を受けていることがわかった。そして、遺物はすべてI層から出土した。

b. 遺構と遺物の分布

遺構はビットを1基検出した(図6)。外形は円形で、肩はしっかりとしている。内部はふくらみ袋状をなしていて、底部は中央に高まりがあり、平坦ではない。柱穴の可能性のあるものの、性格は不明のビットである。遺物の分布は散漫で、攪乱を受けた土層中から石器と陶磁器類が混在して出土した。遺構や遺物の分布からは時期を特定した生活面を面的に捉えることはできなかった。

c. 遺物

遺物は全部で17点出土した。石器4点、陶磁器類13点である。ここでは石器4点のみ図示した(図7)。1は珪質凝灰岩製の幅広い剥片を素材としたスクレイパーと思われるが、風化が著しく、表面が剥がれ落ちているところもあり細部の剥離については不明瞭である。2はメノウ製の剥片で、打面は複剥離面打面で剥離角は97度である。頭部調整が見られる。3は無斑品質安山岩製の厚手の剥片である。4は無斑品質安山岩製の石核である。打面を固定せず、周縁からの剥離により幅広い剥片を剥離している。剥片の剥離角は100度~130度とばらついていて、概ね鈍角な剥離で、平坦剥離に近いものもある。尖頭器の未製品ということも考えられる。これらの石器の時期を決めるには手がかりが少なく、旧石器時代か縄文時代のいずれの所産かは限定できない。

陶磁器類は小片のため風化が困難であった。唐津焼の罫鉢(18~19世紀)や伊万里焼の鉢(18~19世紀)などが出土した。これらは昨年度調査した住宅地点と同様の内容であった。

F. まとめ

昨年度の住宅地点に続き、倉庫建設地点の発掘調査をおこない、石器と土器合わせて17点を得た。内容は昨年度の調査と同様で、旧石器時代から近世にいたるまで、遺物が混在して出土することを改めて確認した。

2. 仲町遺跡 (2001個人住宅地点②)

A. 概要

所在地 信濃町大字野尻567-2

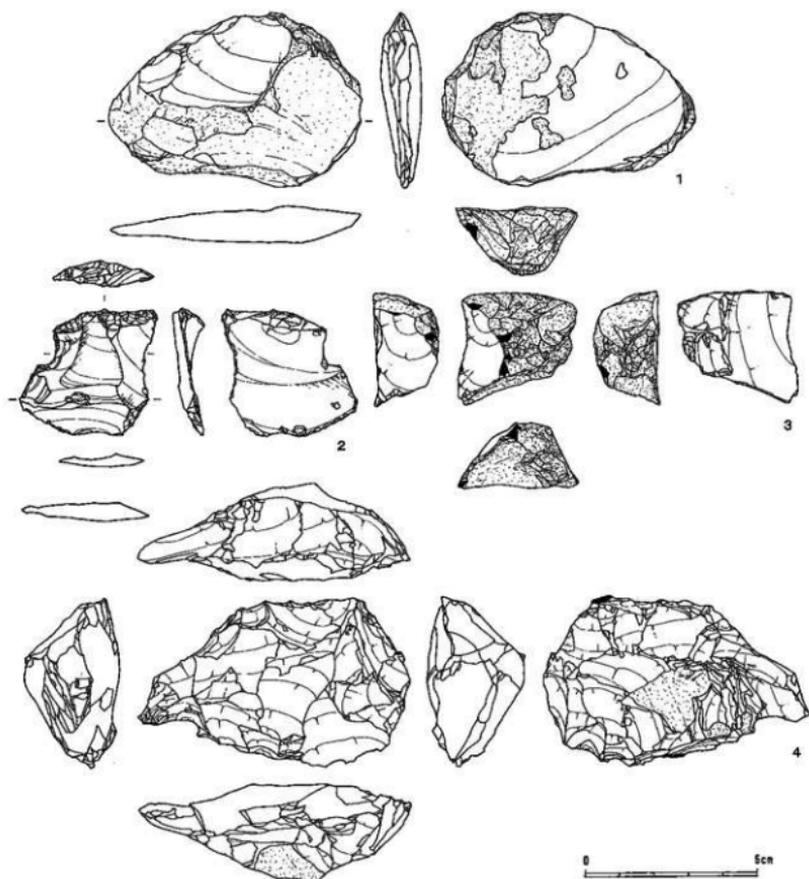


図7 仲町遺跡①の主な出土遺物

事業主体	個人
原因	車庫建設
調査の種類	工事立会
調査面積	9㎡
調査期間	9月19日
遺跡の時代	旧石器、縄文、弥生、中世、近世
出土点数	0点

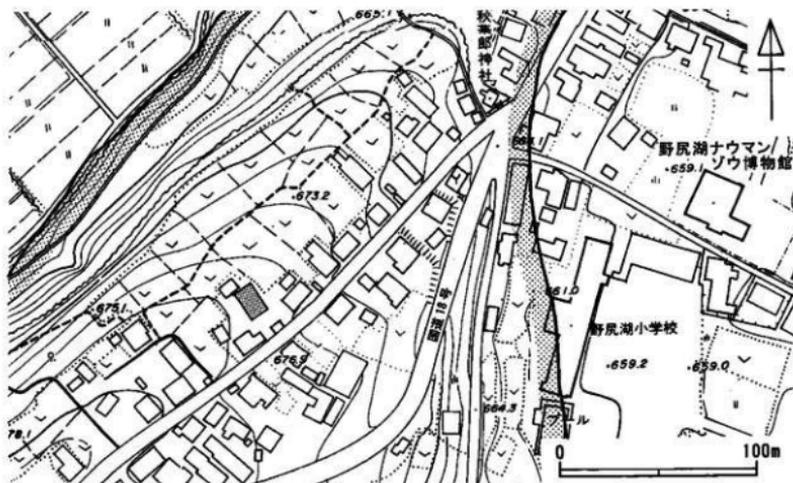


図8 仲町遺跡の範囲と調査地②の位置

B. 調査に至る経緯

仲町遺跡内で車庫の建設が計画されたが、この周辺は過去に調査されたことがなく、掘削する深さも浅いことから、工事立会とした。

C. 調査の方法と結果

バックホーにより慎重工事を実施してもらい、遺構、遺物の有無を調べたが、いずれも検出されなかった。この地点は表土を剥くとすぐにローム層が現れ、過去に造成のため削平された可能性が高い。

なお、井沢氏から庭から出土したということで、五輪塔5基を寄贈したいとの申し出があったため受け入れることにし、文化財調査室へ運んだ。以下に、その記述をおこなう。

D. 遺物

五輪塔は5点あり、五輪塔を構成する空輪、風輪、火輪、水輪、地輪の内、火輪が1点、水輪が3点、地輪が1点という内訳であった。よって、少なくとも3基以上の五輪塔がこの地にあったことがうかがえる。すべて安山岩製である。1は火輪で屋根の流れはやや弓なりで、軒の傾斜が大きい。2～4は水輪で、いずれも中央に最大径があり、上面の中央に窪みが作られている。5は地輪で正方形に近い外形をなしている。室町時代のものと思われるが、それ以上の時期の限定は難しい。

3. 一里塚遺跡 (2001個人住宅地点)

A. 概要

所在地	信濃町大字古間字一里塚983-5
事業主体	個人
原因	個人住宅建設
調査の種類	試掘調査
調査面積	150㎡

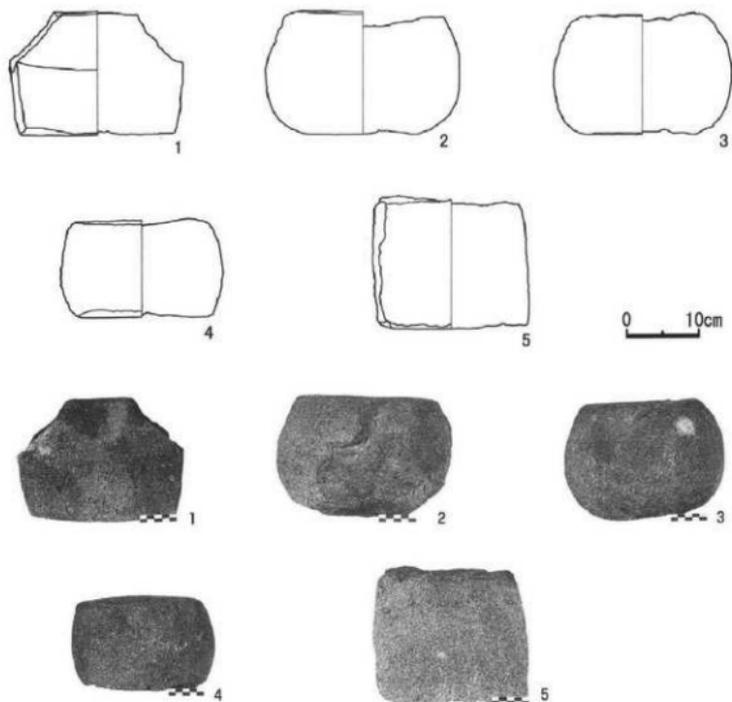


図9 仲町遺跡②出土の五輪塔

調査期間 7月24日～7月27日
 遺跡の時代 平安時代、中世、近世
 出土点数 32点

B. 調査に至る経緯

一里塚遺跡内に個人住宅建設の計画が出された。近くで個人住宅建設に先だっておこなわれた調査ではわずかな遺物の出土しか確認されていないことから、調査は基礎工事の範囲にいくつかのトレンチを設定して試掘調査をおこない、遺物が出土したトレンチを拡張するという方針を立て、事業主の協力を得て実施した。

C. 調査の方法

住宅の基礎工事を実施する外周に、2m×80cmのトレンチを6箇所設置して、遺跡の状況の確認をおこなった。遺物が南東のトレンチで出土したことから、そのトレン

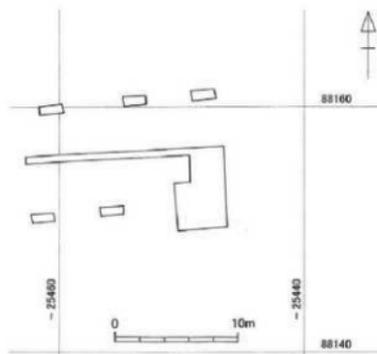


図10 一里塚遺跡調査地の座標位置

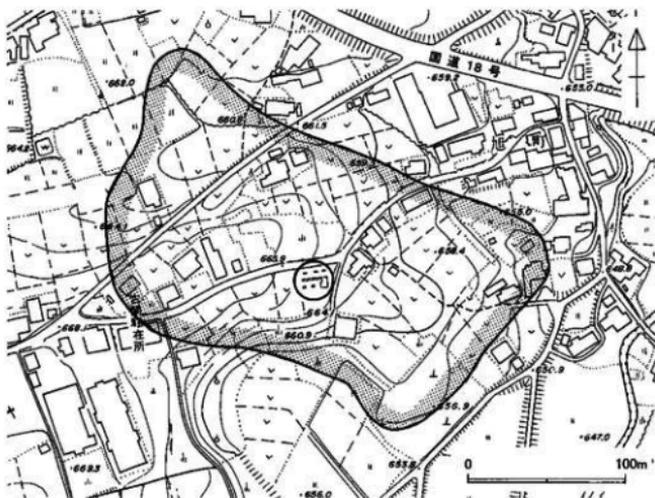


図11 一里塚遺跡の範囲と調査地の位置

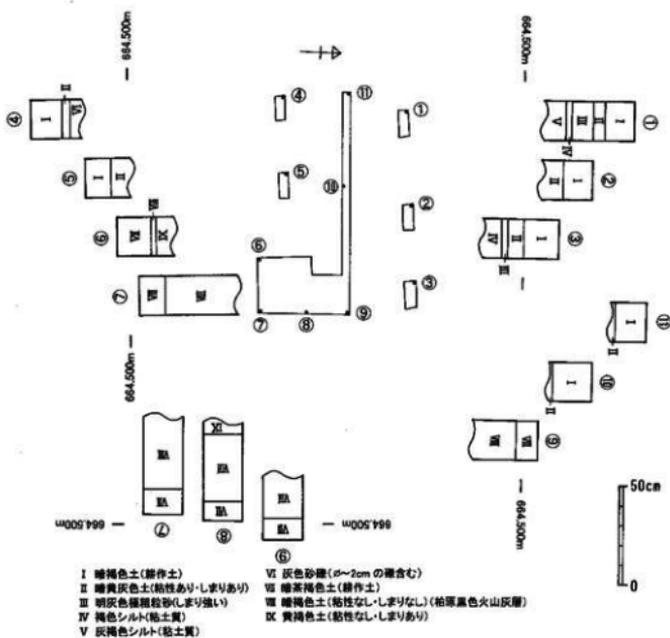


図12 一里塚遺跡の調査範囲と土層柱状図

チを拡張して遺物の分布を確認した。また、建設予定地の中心に16m×60cmのトレンチを設定して発掘をおこなった。発掘は重機を使わずに、草かき鎌と移植ゴテによる手掘りを実施した。

D. 調査日誌抄

7月24日 はれ

初日。6箇所のトレンチを設定し、発掘を開始する。
南東のコーナーのトレンチで土師器が出土したことから、周囲を拡張する。

7月25日 くもり

発掘作業継続。土師器、珠洲焼が出土。

7月26日 はれ

建設予定地の中央に16mのトレンチを設定して発掘したが、遺物は出土しなかった。発掘作業終了。遺物の写真撮影。

7月27日 はれ

調査地の写真撮影、平板測量を実施。遺物の取り上げ、柱状図の作成をし、現場の調査を終了する。

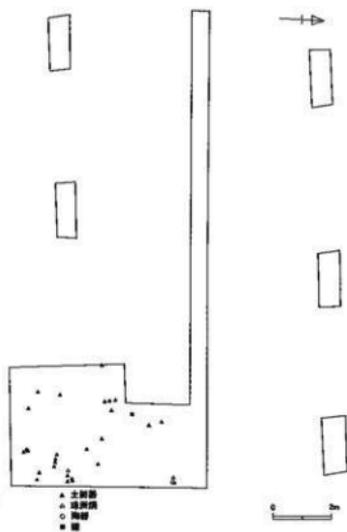


図13 一里塚遺跡の遺物の分布

E. 調査の成果

a. 層序

調査地は丘陵の東側へ下るゆるやかな傾斜地に位置する。調査前は畑地となっており、地表面は耕作土となっていた。耕作土および暗褐色土（柏原黒色火山灰層）は比較的薄く、およそ20cm程度で暗黄灰色土などのいわゆる赤土になる。さらにその下は砂質やシルト質の地層が続いており、水の影響を受けてたまった地層が確認できた。

b. 遺構と遺物の分布

遺物はそのほとんどが層序の暗褐色土（柏原黒色火山灰層）から出土しており、この地層が比較的厚く堆積している南東側のみ遺物が出土した。遺構は確認できなかった。遺物は平安時代と中世、近世のものが出土しているが、面的にとらえることはできなかった。遺物は小片が多いことから、移動して、暗褐色土がたまりやすい場所に落ち着いたと見るのが妥当と思われ、出土した遺物の現地性は低いと考えている。

c. 遺物

出土した遺物は67点で、その内32点について出土位置の記録をおこなった。内訳は土師器51点、須恵器5点、唐津焼4点、珠洲焼1点、その他6点である。ここで出土した遺物のほとんどが小片であるため図化が困難であった。そこで、図14により写真で示した。

1～10は土師器である。1、2は甕の口縁部、3は黒色土器の杯の底部である。4～10は甕の胴部で、タキが施されている。11～14は須恵器で、11～13は胴部、14は高台である。15は珠洲焼の摺鉢の底部である。16～19は唐津焼で、16は摺鉢の口縁部、17は碗の胴部、18は碗の口縁部、19は皿の口縁部である。土師器には黒色土器が含まれ、須恵器も共存していることから概ね9世紀としておきたい。15の珠洲焼は中世（15世紀ころ）、16～19の唐津焼は17～18世紀の所産と考えられる。

F. まとめ

個人住宅の建設に先立ち試掘調査を実施した結果、平安時代、中世、近世の遺物を得ることができた。いずれも小片であり、現地性が低いと考えられ、高台の緩やかな傾斜地のために遺跡が残りにくい環境にあったものと

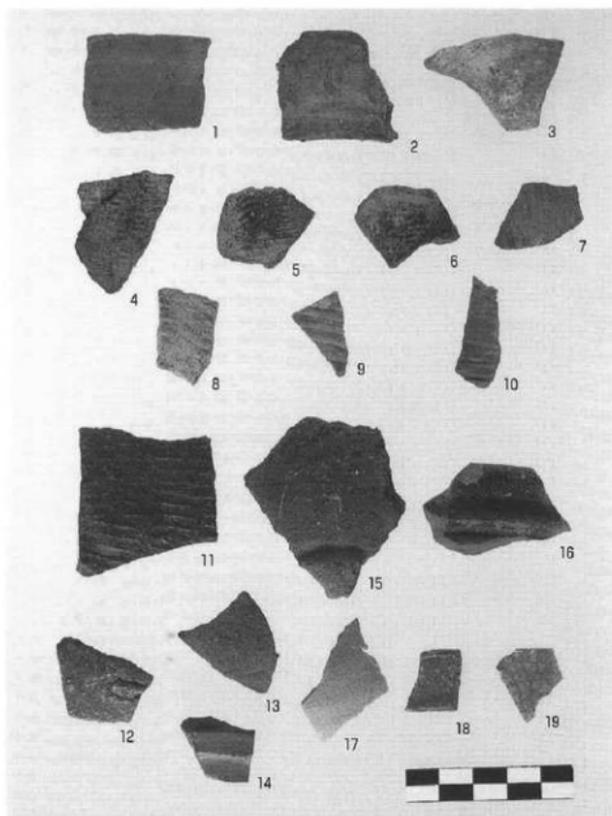


図14 一里塚遺跡の主な出土遺物

思われる。遺物が古代から近世のものを含んでおり、それぞれの時代にこの周辺に人々が居住していたことが確認できた。

4. 仁之倉A遺跡

A. 概要

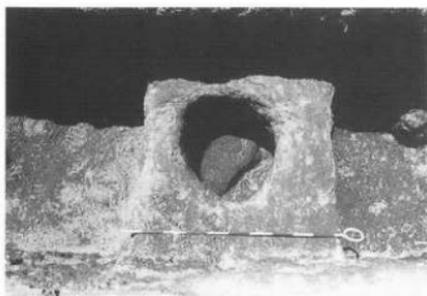
所在地	信濃町大字柏原4382-1ほか	事業主体	個人	原因	個人住宅建設
調査の種類	工事立会	調査面積	150㎡	調査期間	8月31日
遺跡の時代	縄文、弥生、平安	出土点数	0点		

文献

信濃町教育委員会 2001 『仲町遺跡・貫ノ木遺跡』



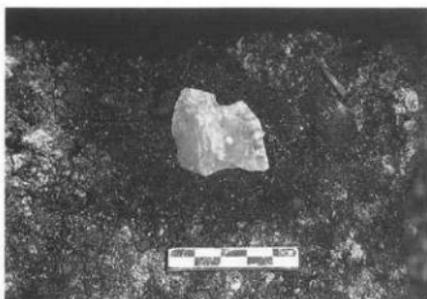
1. 仲町遺跡の完掘状況



2. 仲町遺跡のビット



3. 仲町遺跡の遺物出土状態



4. 仲町遺跡の石器出土状況①



5. 仲町遺跡の石器出土状況②



6. 仁之倉A遺跡の工事立会の状況



7. 仁之倉A遺跡の層序



1. 一里塚遺跡の調査前の状況



2. 一里塚遺跡の調査風景



3. 一里塚遺跡の完掘状況



4. 一里塚遺跡の遺物出土状況①



5. 一里塚遺跡の遺物出土状況②



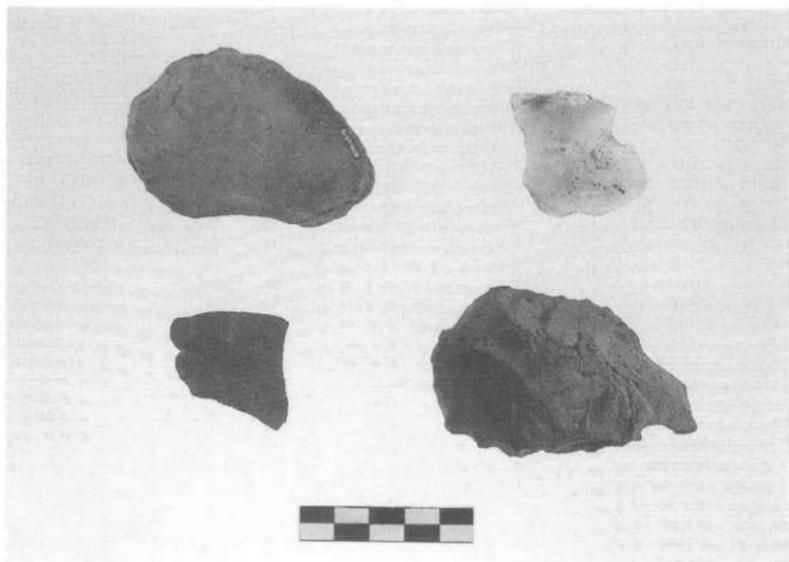
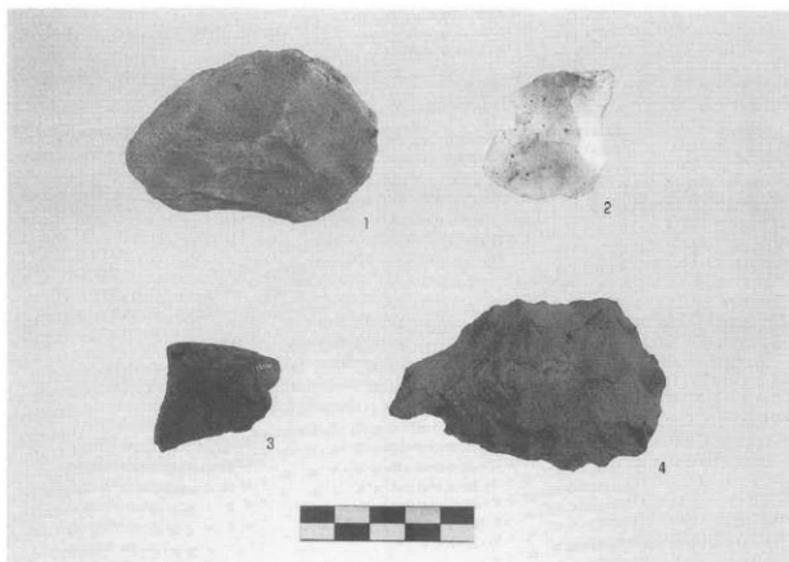
6. 一里塚遺跡の土師器出土状況



7. 一里塚遺跡の珠洲焼(摺鉢)出土状況



8. 仲町遺跡(井沢宅)の工事立会の状況



伴町遺跡の遺物

報 告 書 抄 録

書名	仲町遺跡 一里塚遺跡							
副書名	2001個人住宅地点発掘調査報告書							
シリーズ名	信濃町の埋蔵文化財							
シリーズ番号								
編著者名	渡辺哲也							
編集機関	信濃町教育委員会							
所在地	〒389-1305 長野県上水内郡信濃町柏原428-2 TEL:026-255-5923							
発行年月日	2002年3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
仲町	長野県上水内郡信濃町 大字野尻861	205834	40	36度 50分 10秒	138度 12分 22秒	20010514 / 20010516	16	個人住宅倉庫 建設
仲町	長野県上水内郡信濃町 大字野尻567-2	205834	40	36度 49分 54秒	138度 12分 12秒	20010919	9	個人住宅車庫 建設
仁之倉A	長野県上水内郡信濃町 大字柏原4382-1ほか	205834	78	36度 47分 49秒	138度 10分 49秒	20010831	150	個人住宅建設
一里塚	長野県上水内郡信濃町 大字古間983-5	205834	86	36度 47分 51秒	138度 12分 43秒	20010724 / 20010727	150	個人住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
仲町	散布地	旧石器時代 縄文時代 弥生時代 中世・近世		石器 土器 陶磁器など 17点				
仲町	散布地			出土品なし				
仁之倉A	散布地			出土品なし				
一里塚	散布地	平安時代		土師器など 32点				

仲町遺跡 一里塚遺跡

— 2001個人住宅地点発掘調査報告書 —

発行 平成14年(2002)3月29日

発行者 信濃町教育委員会

〒389-1305

長野県上水内郡信濃町柏原428-2

TEL (026)255-5923

印刷 ほおずき書籍株式会社

〒381-0012

長野県長野市柳原2133-5

TEL (026)244-0235